

子どもと共にあることの栄光とは、一体、何なのだろう。子どもらの上に現われる効果によって、或いは、保育者としての自分の成長の度合いによって、確かめられるようなものなのだろうか。さらには、それらをより確かにするための、言説の堆積なのだろうか。

倉橋惣三も、そのことに向けて、次のような問いを投げかけている。

「保育が幼児のために何を残すかは、素より大切なことである。がまた、保育が日々に行われ何を残すかも貴重なことである。朝に保育の目的と企画があり、昼に保育の過程と実際があり、その過程と実際に、幼児と一つにわれを忘れる没頭があり、かくて、保育のために働くわれらの日々が過ぎてゆくのであるけれども、われらは、その、ただに過ぎゆくことだけでいいものだろうか。残すものは、ただ幼児への業績だけであっていいものだろうか。△幼児の帰った後のしじ

ま」(倉橋惣三選集第四巻)より

着実な継続の跡をしるす「勤続〇年」

という履歴、或いは、現場を知る者にか残し得ない記録や日誌の類いや、それらをより公の言説とした研究論文や著書の数篇、そんなものが、保育者の栄光なのだろうか。倉橋も指摘するように、その程度の履歴や業績は、この現実社会で何ほどの威力を発揮しようとも思われな

い。それは、「小さいものでは決してないが、必ずしも著しいものではなく、とり立てて大いに酬いられるものでもない(前掲文)」のである。

とすれば、残るものは、「日々」に味わう保育の香の、忘れ難い思い出「後に残るとも知らなく、人に告げようもなく、

その日その日に快い酔い心地」であろう。形になり難く、記録にもとどめ得ない、ただ存在全体で感受する以外にない「うっとりとしたしじま」、保育者の栄光は、まさに、そこに凝縮されよう。(H)

## 幼児の教育 第八十一巻 第二号

二月号 © 定価二七〇円

昭和五十七年一月二十五日 印刷

昭和五十七年二月 一日 発行

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

編集兼 津 守 真  
発行人

東京都文京区大塚二ノ一

お茶の水女子大学附属幼稚園内

発行所 日本幼稚園協会

東京都港区三田五ノ二二ノ一

印刷所 図書印刷株式会社

東京都千代田区神田小川町三ノ一

発売所 株式会社 フレーベル館

振替口座東京九一一九六四〇番

◎本誌御購読についての御注文は発売所 フレーベル館にお願いいたします